

4. 今年度の振り返りと来年度に向けて

	暮らしの場	ヘルパー	児童
①部会のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマがあるのは良い。 ・消化不良的な部分もあるし、あえて変える必要性もない。「つながる」を継続してはどうか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「つながる」が今年の状況とあっていて、来年度も継続できると良い。
②部会や研修会について	<ul style="list-style-type: none"> ・部会 4 回あると良い。 ・できれば集まる形の研修会を開催したい。レベル 3 以上ならウェブに切り替える段取りをしておけると良い。 ・部会の中では、普段関りのない職種の人たちとも情報交換できると良い。職種を混ぜたグループでの意見交換の機会もあると良い。 ・実地指導の中で事業所の方から良く上げられるのが、「利用者と地域のつながりをどう作ったら良いか」、「家族同士がつながって情報交換できる場があると良いがどうしたらよいか」という声。そういった事に取り組んだ事例があれば共有できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止になる研修会が地域全体で多かった。集まれる場があると良いと感じる。 ・YouTube 配信でできてよかった。見られる期間が長いことで「いつでもよい」になることもあり、そうならない工夫が必要。 ・コロナ禍での事業所の対応方法を情報共有できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会は年 4 回で良い。 ・YouTube での研修で、パートさんにも見てもらえて良かった。今後も集まる形の研修と、ウェブ研修の両方あると良い。 ・児童発達支援ネットワークの中で、各事業所の支援を学び合える機会を確保していきたい。また、普通学校や児童クラブとつながる良い関係構築の作戦会議の場としていきたい。
③課題検討から見えた地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、暮らしの場連絡会も 1 回しかできなかった。情報交換できる場・方法の確保が課題。 ・高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで遠方の親族が支えてくれたケースでは、新型コロナの影響で来てもらえなくなり、在宅生活の継続が難しくなったケースがいくつかあった。 ・人材不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援ネットワークの具体的な活動内容。
④他部会と連携したい事等			<ul style="list-style-type: none"> ・医ケア部会と連携し、放課後等デイサービス事業所での医ケア児受入れについて話したい。課題と解決方法について。
⑤次年度のリーダー、サブリーダー	今日は出席者が少ないため、別日に暮らしの場連絡会を設け、そこで決める。		<p>リーダー：下田さん（こどもプラス） サブリーダー：足立さん（コンパス）</p>